

# NO! リニア

No. 29

2010年8月31日

JR東海労働組合  
リニア反対プロジェクト

## 安全確保のためのシミュレーションは絶対条件！ 経営が赤字では技術的に優れていても 評価されない・・・コンコルドの教訓を！

8月30日、国土交通省交通政策審議会・鉄道部会中央新幹線小委員会の第7回目の審議が行われました。すでにご承知の通り、この小委員会は中央新幹線の営業主体と建設主体の指名及び整備計画などを決定するために設置された諮問機関です。今回は、有識者ヒアリングということで、東京大学名誉教授、井口雅一氏と作家・元経済企画庁長官、堺屋太一氏からのヒアリングが行われました。

井口教授からは、「21世紀型高速列車時代を拓く」という題目で、自らが携わってきたリニア技術の開発を活かし、世界に先駆けてリニア方式による中央新幹線を推進すべきという立場の意見が述べられました。しかし、そのためには、高性能・高品質・安価を両立させる知恵の積み重ねと異常時安全確保の徹底したシミュレーションシステムの確立が絶対条件であり、そのことがクリアしなければ失敗するという内容の問題提起がされました。

また、堺屋氏からは、日本の新技術開発と世界への宣伝効果、国民の士気高揚などから極めて重要な事業という立場で意見が述べられました。しかし、堺屋氏も推進の立場を明らかにしつつも、現在の計画では、問題点（東京－名古屋先行開業、品川始発、他新幹線との接続、東海道新幹線との併業による甘い需要予想など）が多く山積していること、あるいは最大の問題点として、現在の東京一極集中の国土構造政策を見直すことなしには、中央新幹線は衰退するという見解が明らかにされました。

今回のヒアリングでは、どちらかというとも推進を望む意見でしたが、両氏共に実現までにはクリアしなければならない重要課題が存在することを指摘し、今後の検討課題となることが述べられました。今後、一般に公募したパブリックコメントの検討を含め、さらに審議することが確認されました。

リニア推進派も「問題をクリアせよ」と指摘！